

将来の夢〜花農家として生きていく覚悟〜

千葉県立流山高等学校 二年

内海 文陽
うちうみ ふみや

「お父さん、僕3代目として働きたい」なぜ、今までこの言葉を言うことができなかったのか。1代目である祖父も2代目である父も絶対に喜ぶことはわかっています。私自身も「内海花園」を継ぎたいと思っています。でも言えません。自信がありません。

私の家は、柏市大青田で2代続く花農家です。経営形態は、直売所での販売を中心にインターネット販売も始め全国展開しています。家には、温室が4棟、4連ガラス温室が1棟、ビニールハウスが3棟あり、そこでは、鉢物と花壇苗をつくりシクラメンを中心にサイネリア、カーネーション、ラナンキュラス、サフィニアなど四季折々の草花を栽培し、直売所で販売しています。小さなころから私の周りには花があることがごく当たり前でした。私は、中学の頃に「内海花園」を継ぎたいと思うようになり草花が勉強できる流山高校に進学を決めました。

入学して最初に「農業と環境」でトウモロコシ栽培をしました。

先生から「すべての農業の基礎としてイネ科植物の栽培を勉強してもらいます」言われ、そこでは播種による発芽の3条件、生育のための肥料の3要素、光合成と呼吸の原理など初めて聞くものばかりで、トウモロコシひとつ育てるためにこんなにもたくさん知識が必要なのだとワクワクしました。学べば学ぶほどに当たり前のようにきれいなシクラメン、母の日にぴったりにカーネーションの花を咲かせている。祖父や父は、すごいことをやっていると感じました。1年生の3学期からは、念願の草花専攻での実習がスタートし、草花について父と話す機会が増えました。「今日カーネーションに液肥をあげたよ。」「そうか。どんな肥料をあげたんだ?」「ピーターズのオール20をあげたよ」「そうか。カーネーションは、水のあげすぎに気を付けるんだぞ。」「え。なんで?」「カーネーションは、乾燥しているときに根を大きく張るから、しっかり水を切ることがポイントなんだ。」「そこからいろんな話を聞くことができました。花の話や父と話しているときは、父と息子ではなく一人の生産者仲間として話をしてくれているようであんなにうれしかったです。もっと、もっと、いろいろ話ができるように勉強したい。座学も実習もすべてがつながっているのだと思うと自然と身に入っていることが分かり、力がついていることに自信がきました。

今年から「課題研究」の授業が始まりました。私は、シクラメン

栽培の栄養診断技術の研究を進めています。先輩の葉柄搾汁液硝酸イオン濃度の測定実験を手伝わせてもらいました。硝酸イオン紙を用いて、発色に基づいて硝酸イオンの増減を判定する研究を行いました。「硝酸態窒素は、100ppm～200ppmを維持している」「先輩！試験紙の色は、薄紫です。100ppm以下です。液肥を2000倍で施肥しましょう。」先輩との研究は、本当に有意義でした。現在、全国のシクラメン農家は、長年の勘と経験で管理しており、「管理の見える化」はされていません。若い農家から悩みの声が上がっています。ここから私は先輩との研究を更に進めるため農協からECメーターを借り、より正確なタイミングで施肥できる研究を行っています。このデータが集積すると、「葉数増加の時期は50ppm程度。花芽分化の時期は100～150ppm。出荷1ヶ月前からは100～200ppm」など、指南書を作ることができます。

最近、父に話をしました。「今お兄ちゃんが大学で経営学を勉強してるでしょ？ぼくは、花を勉強してるでしょ？経営と栽培のプロとして一緒にやってみたい。」はじめて本当の気持ち可言えました。すると父は、「今の内海花園は、年間粗収益2500万円だ。お前たちが一人前になるころには5000万円にしたい。」少し身震いしました。父は続けて「ハウスの数を変えるつもりはない。」「インターネット販売を拡大し、世間の情勢をみ

て売れる花を売っていきたい」「そうなればもっと人も雇うことができる。管理作業にも目が行き届き品質も向上するそうすれば単価も上がる。」「明確な将来計画を持っている父に強い気迫を感じました。

そんな父に私は、「高校卒業したら東京農業大学に行ってシクラメンについてもっと深く学びたい」というと父は「がんばれよ。応援してるよ。」と言ってくれました。これからの高校生活には、日々の勉強と部活動、資格取得、やらなくてはいけないことがいっぱいです。でも、今は、目の前のやるべきことをしっかりとやりたいと思います。「3代目の花農家になる」と自信をもって言える日を目指して。